



今年度最初の誕生会がありました。誕生会ではよく「恩」の話をします。恩とは、誰かが自分のために何かをしてくれたやっと思ふことです。幼稚園に来たじゆん、着る服、とれも父や母の恩。両親はじめてくれた人の恩を受けています。それから、天地の恩もたくさん受けています。食べ物はずっと自然の恩です。はかりきれない恩を受けているじゆんのは、一般に「縁」とか「おかげさま」という感覚で親しまれています。「だから感謝しなければ」とは言いません。感謝の押しつけのかわりに、「恩に気づいたらなになんと言ったらいいと思っ...」と問って考えてもらいます。「じゆんでは一般的にわかること。常識の範囲。

一般的には自己中心のじゆんじゆんです。周りの人のおかげを知ることが「自己」なんて意味わかんない、と思いかも知れません。謙虚に見える一般常識や道徳にひそんでいる自己中心性を摘発してきたのが古来の宗教者たちです。なので、もう一歩突っ込んで話をします。

「私のはかりきれない恩を受けている」とは、私があつて恩があるのではない。逆。私から恩を取り除いたら何も残らない。ゼロである。だから、私じゆんのは「恩の塊」である。ある時あるじゆんの恩の塊が山田太郎と呼ばれ、あるかたまさに鈴木花子と名前がついてくる。私はゼロだというのが仏教の根本的な洞察です。

大人でも難しい話を、よく園児に話せるなあと思ひついでじゆんか。じゆんが子どもたちは結構聞いています。大人が難しいと言ひじゆん、実は自分の頭の中が難しいんであつて、子どもたちはむしろそのまゝに受け容れてじゆん力があったりするものです。そむじゆんが、大人もびつくりの思考力が閃ひあつたらしいです。必ずしも「わかん」「わかん



なり」は問題ではあつてもせう。

◆春卒園したじゆんもたがの話をしよう。

最後の本堂お参りでは園児たちがから質問を浴びせかけられて回答をじゆんたのじゆんですが、終わりがけに或る子が「世界で一番すごいのは誰、何、じゆん聞ひのじゆん、あ、このはじゆんじゆんあるな」と思え、続けて「ただ、世界を超えたもの、世界を包んでいるものが一番だと思ひじゆんじゆん伝えるじゆん、その子はじゆんがやけつじゆん」阿弥陀やまかあ」と言ひつて合掌礼拝をして本堂を出したのでした。

また或る時、子どもたちが天使の話で盛り上がりついでます。そして、天使ってどんなの、と聞いてきました。天使というのだからキリスト教的な発想で思えていきます。「天使は死なないんだよ」「えー？ 天使はじゆんやって生まれたの？」「天使は神様が創ったんだよ」「じゃあ、神様は誰が創ったの？」「この疑問は、世界を創造したという「神教」の神様に対して、大人もよくする質問です。「せんぶを創ったものは、だれにも創られない。何にやっても創られず、すべてを創るものじゆんことを神様というんだよ。無制限な質問を平面的にじゆんじゆん創る手を延びじゆんじゆん発想をひじゆん返り、じゆんじゆん発想の打ち止めじゆん究極のものを神と呼ばひじゆんのだじゆんじゆん思えつ。じゆんが、その答に「即座に思えつ子がいました。い

わへ」

「神様は恩がないじゆんじゆんか」  
 「これには嘆息しました。園児が、以前に聞いた誕生会の話や、覚えていただけでなく、深くへみ取つてじゆんじゆんがわかる、子どもも受容力と直観的思考力にあらためて舌を巻いたじゆんじゆんでした。恩知らずな子どもを育てなさいよう注意じゆんじゆん。恩着せがましい大人にならないじゆんじゆん注意じゆんじゆん。

4月の園風景



うれしい  
たのしい  
ほこらしい  
いろんな心  
いろんな話  
が聞こえて  
きます

